



ジョージ・ディミトリアディス氏 2013年1月講演会

ジョージ・ディミトリアディス氏の講義が、英国 RAHUK 校にて行われる事が決定しました。

ジョージ・ディミトリアディス氏は、ご存知の方も多いと思いますがオーストラリアのハーネマン・インスティテュート・シドニーの校長で 創立者でもあります。30年間にわたるホメオパシーの研究と22年以上 オーストラリアや海外でホメオパシーを教えています。

ホメオパシーに関して 5冊の著作を執筆しており、ボーニングハウゼンのレパートリー (TBR : The Bonninghausen Repertory) の編集を手がけ、オーストラリアやニュージーランドで、これを教授しています。ボーニングハウゼンのレパートリーメソッド (TBR) の第一人者であり、ハーネマンのオーガノン、慢性病についての研究者としても名高く、ホメオパシー専門誌への寄稿も多数あります。

(ボーニングハウゼンはハーネマンの最初の直弟子として、レパートリーを開発しています。)

ジョージ・ディミトリアディス氏は、ボーニングハウゼンのTBRの復興者であり、これまでの来日授業でも 多くの反響と感動を呼び起こしています。

今回のテーマは「薬物論ーハーネマンの純粹薬物論と臨床における適用」ということで行います。ディミトリアディス氏による未発表の講義が世界に先駆けて CHhom & RAHUK にて開催されますので、見逃せない講義になるものと思われます。時間を創り出してぜひご参加ください。

***** ジョージ・ディミトリアディスからのメッセージ *****

純粋薬物論へのいざない

薬物学は、ホメオパシーの診断を行う上で、事前を知るべき必須の条件であるにもかかわらず、薬物学の研究や学びは、恐らくおろそかにされ、ホメオパシーのレメディーのあらゆる側面について誤って理解されている事が多い。

純粋なブルーピング記録を徹底的に研究し、十分に理解すると、(ホメオパシー診断を行うための) 最も正確で適応性のある基礎が築かれる。そして、その基礎に基づいて、病気と薬剤 (レメディー) とのホメオパシー的な関係性が決定できるだろう。

今日、殆どのレメディー処方家が、そのような研究に十分な時間をかけようとせず、大元となるブルーピングの研究 (ハーネマンの RA, CK) を行い、自分で結論を出す代わりに、その大半の時間を後世の「経験」や不正確な解釈を集めたりする事に当てると言う間違った時間の使い方をしている。このようなことから、薬剤の実際の効用に関する知識を欠き、その結果、レメディー処方も確信の欠けたものになってしまう。

今回の講義では、ハーネマンが薬物論 (RA&CK) をまとめ上げるにあたり、ハーネマン自身によって用いられた大元となるブルーピングと毒物学を紹介する。この学びを通じて、臨床症状におけるレメディーの効用とそのホメオパシー的適応性、そして、その状況背景における意味をよりよく理解する事ができるだろう。この様な研究から学べる基礎の原理は、更に他のレメディーの調査や、それらレメディーの唯一のブルーピングデータの証拠に基づいた臨床的な適用性を調査する際にも役立つだろう。

この独自の取り組みは、過去数年をかけて、シドニーのハーネマン・インスティテュートで開発されたものであり、他の何処にも着手されていないものである。

ジョージ・ディミトリアディスは由井寅子学長の良友であり、彼による「THE BÖNNINGHAUSEN REPERTORY」は広く知るところである。ディミトリアディス氏はハーネマンとボーニングハウゼンの研究を 30 年以上にわたって行っており、その研究における第一人者である。彼は治療家向けの 5 冊の書籍の出版や様々な学術誌への多数の寄稿を行い、世界各地で講義を行ってきている。

ディミトリアディス氏の情熱は調査の正確性に向けられており、彼の原典研究の詳細な引用は広く知られるところである。彼は現在、私たちの用いているマテリア・メディカの研究と私たちの標準的な治療の実践において明らかにされている、その多くの誤りの修正を進めている。そしてその研究により、私たちのマテリア・メディカにおける新しい正確性の基準を約束するハーネマンの薬物論の再発刊が待ち遠しいところである。今回のセミナーはディミトリアディス氏が国外で初めてハーネマンによる毒物学の出典 (旧式の) の調査を通じたマテリア・メディカの学習方法とそれらがどの様にマテリア・メディカの構造と、その臨床での適用について多くの洞察をしめすハーネマンのスキーマにどの様に具体化されていくかを解説する機会となる。

***** CHhom & RAHUK からの御挨拶 *****

由井学長の友人、ジョージ・ディミトリアディス氏による未発表の講義が世界に先駆けて CHhom & RAHUK にて開催される運びとなりました。

ハーネマンが自身の薬物論 (RA と CK) をまとめあげるに当たり使用した毒物学に関する報告。肉体的な変質 (潰瘍を生じさせるなど) などは物質レベルの力を必要とするかもしれず、その部分はレメディーのプルービングによって引き起こされる主観的な症状よりも、物質レベルの摂取によって人体や他の生物に引き起こされる客観的な症状 (毒物学) によってカバーされる部分が大いでしょう。

ハーネマンが RA と CK をまとめあげるにあたり、ハーネマンがどういう毒物学を使用していたかをこの講義で知ることができ、また RA と CK との関連性についての理解を深める事ができる機会となるでしょう。

〈 JPHMA 更新制ポイント対象 〉

講 師：ジョージ・ディミトリアディス氏

当セミナーは英語—日本語への逐次通訳で行われます。

日 時： 2013 年 1 月 19 日 (土) 0900~1600 ライブ

※午前中のクラス 0900~1200/昼休憩 1200~1300/午後のクラス 1300~1600

会 場： The Japan Royal Academy of Homoeopathy (RAHUK)

参加費：

<早割：12 月 28 日まで>

RAHUK 在校生：40 ポンド

RAHUK 卒業生・他校学生：50 ポンド

ホメオパス：60 ポンド

一般：70 ポンド

<12 月 28 日以降>

RAHUK 在校生：50 ポンド

RAHUK 卒業生・他校学生：60 ポンド

ホメオパス：70 ポンド

一般：80 ポンド

※ご予約はメールまたはお電話にてお願い致します。

※一旦お支払された代金はいかなる理由があっても返金はいたしません。

※席に限りがございます。満席の場合はご容赦ください。また、必ず事前にご予約をお願い致します。

※ 講演会において、カメラ、ビデオによる撮影、録音機器などによる録音はご遠慮いただいております。

※紹介する内容は、予告無く変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※ 最少催行人数に満たない場合は、開催を延期する場合がございます。